不定期刊行　　第541号　2015.03.18

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

もう一つ、滋賀県の山（伊吹山・蛇谷ヶ峰）の報告

来年度ＩＨの事前情報　松山工業高等学校：藤原昭宏先生寄稿

３月８日は「サバの日」ということで、サバ街道へ行ってきました。 鯖寿司は、道の駅「くつき新本陣」にて、日曜朝市が開催されて、多くの種類を食べることができました。天気はあまりよくなかったのですが、山頂まで往復しました。どちらの山も六合目から上はアイゼン歩行なので、最短ルートとなっています。伊吹山は、六合目から急斜面の直登で、６本爪アイゼンでは下りが怖かったです。

登山者１５０人ぐらいは、すれ違いました。外国人が２０人は居たと思います。登山地図は詳細なものがネットで確認できます。ジグザグの数まで正確です。初夏から初秋に、バスで山頂まで行き、歩いて下る人が多いようです。

蛇谷ヶ峰（来年度ＩＨ会場）は、多くの登山客がおり、驚きました。こちらも外国人がいました。サッカー少年団が３０人ぐらいおまけでした。路線バスを利用している人も多く、さらに驚きです。この時期に、あちらこちらの登山口に登山者がいました。

ＩＨの委員長隊で使う宿泊施設もきれいでした。個室には冷蔵庫もありました。きつき温泉「てんくう」も快適でした。脱衣場も広く、露天も最高でした。地元の日本酒も比較的おいしいし、「生」酒も４種類ありました。合宿所は、女子大生（サークル活動）が泊まっておりました。夏は暑くて登山する人は少ないといわれました。 秋に来てください と言われました。

滋賀県山スキー旅の思い出②　安芸高校　西部伸也先生寄稿

3月5日（木）～6日（金）と広島県の高校入試、しかも6日（金）は私の教科である英語の試験があって、その採点業務もあるので、夕方早めに出発することはできないと思っていたが、午後の採点業務が意外と早く終わったので、2 時間ほど年休を取って、いったん帰宅し、着替え・準備を済ませて16時半に広島市南区の自宅を出発。

途中のSAで夕食を取りつつ、およそ5時間後の21時20分、大阪府吹田市の姉宅に到着。かつて大阪府の高校教員（最後は教頭）で、今は中国で日本語教師をしている姉の夫もたまたま帰国していて（ちょうど翌朝、中国に帰るとのことだった）、甥・姪も含めて久々の団らんの時を過ごす。

滋賀県バックカントリーは比較的近県の石川・根石さん、愛知・岩狭さんに声をかけてみた。あいにく岩狭さんは別の予定が、根石さんも急な事情により、合同での登山はなくなってしまった。以下は、単独行となってしまったが、第3回目になる「インターハイの山でのバックカントリー」の報告である。結論をかいつまんで言えば、比良山系の一部になるびわ湖バレイ周辺はまずまず楽しめ、高島トレイルの一部になる赤坂山・三国山一帯に至っては、非常に素晴らしいコースだということである。

3月7日土曜日は朝7時にびわ湖バレイのロープウェイ山麓駅駐車場で石川・根石さ

んと待ち合わせであった。20 分ほど遅刻してしまったが、根石さんと合流するも、上記のとおりすぐにお別れすることになってしまった。お土産に石川の酒を頂き、こちらからは広島のもみじ饅頭をお渡しし、またいつの日かの合流を願いつつお別れした。

木戸峠の少し先より

8 時 20 分にロープウェイに乗り、8 時半過ぎに山頂駅からまずはゲレンデの滑降を開始した。すぐに木戸峠への入口と思われる個所につき、スキー板にシールを装着する。ここから比良岳（東肩）～葛川峠～烏谷山（からとやま）～南比良峠～堂満岳（北西尾根）～金糞峠と辿って、比良スキー場跡から比良山系最高峰の武奈ヶ岳（1214m）に至る予定であった。地図で距離や標高差を見ながら、びわ湖バレイから 2 時間少々で金糞峠、さらにもう 2 時間少々で武奈ヶ岳、武奈ヶ岳からは 3 時間半ほどでびわ湖バレイまで戻れると踏んでいたのだが、実はこれが大誤算。烏谷山まではまずまず順調に行ったものの、そこからは意外と時間がかかり、南比良峠の手前ピークに到着した頃には既に 11 時を過ぎていた。武奈ヶ岳は遥か彼方の雲の中でもあり、この日の行動は南比良峠までと変更。びわ湖バレイからは降り主体ながら、アップダウンも結構あるので、降りもシールを装着したまま行動していたが、南比良峠で打ち切りとなると、ずっとシールを付けていたのではいかにも残念。そこで手前ピークでシールを外し、この日初めての山中滑降を楽しむ。結局、南比良峠に到着したのは、びわ湖バレイ山頂駅を出発してから 3 時間後の 11 時半過ぎであった。

南比良峠で再びシールを装着し、こんどは登り主体となるびわ湖バレイまでの復路であったが、烏谷山～葛川峠、比良岳（東肩）～木戸峠の降りではその都度シールを外して滑降を楽しんだ。なかでも、比良岳から木戸峠へ向けての降りはなかなか趣のある林間滑降であった。南比良峠～びわ湖バレイの復路も往路とほぼ同じ 3 時間少々で、15 時前にスキー場に帰り着いた。最後は少し疲れたので、リフトのお世話になり、山頂駅に戻る。（今回、特に烏谷山～南比良峠間のアップダウンなどで時間がかかったが、烏谷山かそれを過ぎたあたりの見晴らしの良い尾根で引き返すことにすれば、所要時間も 4 時間程度で収まり、稜線から琵琶湖の眺めが得られる天気であれば、いっそう楽しめるかなと思ったしだい。）ちょうど 16 時のロープウェイで山頂を後にし、16 時半過ぎに山麓駐車場を出発して、翌日の目的地である高島トレイル赤坂山・三国山への登山基地となるマキノ高原に向かう。高原の温泉「さらさ」で夕食を取り、汗を流した後、『車中泊お断り』のマキノ高原駐車場から移動して、数 km 離れた道の駅「マキノ追坂峠」にて車中泊。軽自動車（スズキ・ハスラーのマツダ版であるフレアクロスオーバー）ながら、「遊べる軽」と宣伝しているだけあって、車内で快適に睡眠。

烏谷山東稜より琵琶湖を望む